

心花

あいさつ力

今年度から西南中では「生活週目標」を掲げています。おそらくどの学校にも似たようなものがあると思いますが、ややもするとただのお飾りになってしまっています。西南中では、将来社会人として是非身につけて欲しいことや生活の様子を見て、高めていきたいものを週目標としています。生徒はその一週間でやりきることを目標とし、私たち教師は徹底させることを目標としています。

そしてその週だけで終わらず、積み重ね、継続し、新たな「習慣」にまで高めることができれば、将来素敵な人生が送れるだろう、という想いを持って指導に当たっています。まさしく「習慣は第二の天性」なのです。

「爽やか笑顔で先取り挨拶」「時間感覚を研ぎ澄ます」「身なりも言葉遣いも環境も美しく整える」…といった「爽・研・美」をスローガンに、誰にでもできる簡単なことを「凡事徹底」しています。

今週、一年生が集団宿泊教室を行いました。雨天が心配されましたが、ちょうど「梅雨の中休み」となり、芦北では好天に恵まれ、メインとなるマリン活動を楽しんでいる様子が見られました。

その出発式の際に、学年主任の川口先生より「挨拶」についてお話がありました。「普段は学校の中で、先生たちから挨拶をされるから、挨拶を返す、というのが多いです。しかし今日から二日間、学校の外で活動をします。どれだけ「あいさつ力」が身についているか、試す良いチャンスです。学習する場所の方々へ、「挨拶は一番身近な自己紹介」だという想いを持って、先取り挨拶を実践してください。」といった内容のお話がありました。

「挨拶」の「挨」には、「心を開く」、「拶」には、「心に迫る」という意

味があります。夜道に一人で歩いていて、向こうから来る相手が挨拶もせず黙って自分に近づいてくれば、不気味で怖くなり、自分の心は自ずと閉じてしまうでしょう。

ところがどうでしょう。相手が笑顔で「こんばんは」と挨拶した途端、「あ、この人は良い人なんだな。」と自分の心がパツと開き、「こんばんは！お散歩ですか？」と相手の心に迫りたくなっていくものです。実はこれが挨拶の持つ大きな力です。挨拶をされると、人は誰でもその人を応援したくなるのです。

先取り挨拶は、「相手との関係を良好にしよう」という想いが込められています。すなわち先取り挨拶ができる人は、「人との出会いを大切にしよう」と考えている人」、「相手の存在を認め、敬意を払って対応できる人」と考えることができます。

人を大切にしている人は、多くの人から好感が持たれるようになるのは自然なことです。自己中心的な人が多く見られる世の中だからこそ、「心のこもった挨拶」ができる人には、周りの良い人が勝手に寄ってきて、自分の人生を幸せにしてくれます。

また、挨拶をする時、挨拶をする自分自身の心が引き締まる、と感じることはありませんか。一度の挨拶でもちよつとした「勇気」が刺激になり、挨拶するたびに自分が高まっていくものです。

逆の立場で考える(心のこもった挨拶をされると、人は「何か」を感じます。「何か」を感じるから、挨拶一つで、進んで応援してくれたり、支えてくれたりするのは、それだけ、「人生を大きく好転させる力」が挨拶にはあるのです。

日常生活を見れば、私たちの目の前には必ず「人」がいます。家族、友人、クラスメート、職場の仲間…。「関係がうまくいっていないなあ。」と悩み出したら、ぜひ「もう一度、この人のことを大切にしよう。」という気持ちで、挨拶という形で表してみよう。きつとあなたの人生は好転するでしょう。